

育児休業に関する体験記 9

30代 32日間取得

①家事・育児について

1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか

事前に役割分担を決めるようなことはしなかった。授乳以外のことは何でも出来るように育児に当たった。家事や買い物も8割を担当した。

2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について

平日の帰宅後から早朝まで約9時間は、夕飯作りや子供の世話を妻と協力して行っている。休日はお互いが1人になれるように意識しながら育児に当たっている。

(妻 記載欄)休業取得者の家事・育児の参画の状況について

元々、家事を積極的に行っていたので、育児も積極的に参加してくれて助かりました。夫と育休取得を承認してくれた夫の勤務先の厚意に感謝しています。

②仕事について

1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか

私が一昨年まで1人で行っていた作業の担当者がもう1人増えたので、時間をかけて仕事を教えながら自然に引き継ぐことが出来た。

2. 評価・反省

引継ぎ担当者が仕事に慣れた頃合いに育休取得となったので、安心して育児に取り組むことが出来た。人の助けとタイミングに恵まれたと思う。

③自由記述

今回、育休を取得した目的の一つは、この先何年も続く育児の負担が妻に偏り過ぎるのを防ぐためでした。出産前後は妻が実家に帰ることも考えましたが、妻の手伝いとしてではなく私自身が主体的に育児に取り組むため、特に最初の1ヶ月は親として成長する上で重要な期間だと捉えて育休を取得しました。実際に育児が始まってみたら想像以上の大変さでした。妻と協力して我が子に愛情を注ぐことが出来たこの期間は、今後も育児を分担していく為の土台になるだろうと思います。

もう一つ大きな目的として、私が育休を取得して育児に取り組む姿勢を後輩達に見てもらいたいという思いがありました。男性が育児に積極的に関わるのは、当たり前という考えを持ってもらいたいとの思いです。今後、後輩が父親となり育休を取得する際には私も先輩としてサポート出来るよう努めたいと思います。

今回、初めての子供が生れ「お七夜」という行事があることを知り、その由来から新生児が7日生きることすら困難な時代があったことも知りました。便利になった現代でも大変に思える育児が紙おむつはもちろん、電気や清潔な水もない大昔の時代はどれほど大変だったのか想像を絶します。

戦争や飢饉があっても血筋を絶やさなかった先祖達に頭が下がる思いでした。

私もこの尊いリレーを一代繋いだ喜びとともに、その先の時代へバトンが繋がるまで我が子を守り育てていく決意を胸にしました。